

III. 統計資料等を活用した県内景気動向等の分析調査

III. 2. 宮城県調査

[補足資料] 本調査で用いられている用語の説明(追加説明分)

鉱工業生産指数(⇒宮城経済月報原文:II.主な指標の動き1.生産で言及)	
引用文献	経済産業省:鉱工業指数の概要 https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/gaiyo.html#cont2
要約	<ul style="list-style-type: none">● 指数の意義 生産指数:鉱工業生産活動の全体的な水準の推移を示す● 指数の計算方法 品目毎の一月当たりの生産量を、基準年=100 として指数化し、各品目別指 数を基準年のそれぞれのウェイトで加重平均することにより、鉱工業全体や業 種別・財別などの総合指數を求める算式。● 加重平均方法 生産指數の採用系列数は 408 品目 そのうち経済産業省所管品目は 364 品目 所管外品目は、44 品目(食料品・たばこ工業の品目や、医薬品、鋼船など) ウェイトは、生産指數は付加価値額ウェイト(計算式では基準時点でのウェイト) 「経済センサス-活動調査(基幹統計調査)」等を基礎データとする

景気動向指數(⇒宮城経済月報原文:III.宮城県経済動向指數で言及)	
引用文献	景気動向指數(内閣府):景気動向指數の利用の手引 https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html ASMB日興証券 https://www.smbcnikko.co.jp/terms/japan/ke/J0110.html
	<ul style="list-style-type: none">● 景気動向指數の要旨 景気全体の現状を知ったり、将来の動向を予測したりするときに使われる経済 指標● 算出方法 産業、金融、労働など、経済に重要かつ景気に敏感な 30 項目の景気指標をも とに指數が算出● 算出の種類 コンポジット・インデックス(CI)とディフュージョン・インデックス(DI)● 先行指數・一致指數・遅行指數 数ヵ月先の景気の動きを示す先行指數、 景気の現状を示す一致指數、 数ヵ月から半年程度遅れで反応する遅行指數
	<ul style="list-style-type: none">● コンポジット・インデックス(CI) CIは構成する指標の動きを合成することで景気変動の大きさやテンポ(量感)を 表す。

	2015 年を 100 として前月の指標が大きく増えているようであれば景気回復が急ピッチであるなどと見ることができます。	
	<ul style="list-style-type: none"> ● ディファージョン・インデックス(DI) <p>DIは構成する経済指標のうち、上昇を示している指標の割合が数ヵ月連続して 50%を上回っているときは景気拡大、50%を下回っているときは景気が後退していると判断する材料になる。</p>	参考
	<ul style="list-style-type: none"> ● 先行指数、一致指数、遅行指数 <p>(例)景気判断と雇用 景気が良くなり始めると企業が雇用を増やすため、「新規求人件数」が増えます。それは景気に先行して動くので先行指数。 労働需給の面から、労働市場の好不況は景気にほぼ一致して動くので、「有効求人倍率」は一致指数です。 景気が良くなると収入が増えて消費が活発化し、逆に景気が悪くなると収入が減って消費が減少します。それらを表す「家計消費支出」は、景気に遅れて動くので遅行指数です。 さまざまな動きをする指標全体を見ることで景気が良くなっているのか悪くなっているのかを知ることができます。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 寄与度 <p>CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。</p>	

【みやぎ経済月報要約宮城県の経済概況(令和7年1月31日公表)の要約】

(統計課資料 第1588-10号み や ぎ 経 済 月 報(2025年1月号) 令和7年1月31日)

- 原文下記参照方

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/keiki.html>

以下にその要約を示す。

I. 本県の経済概況

11月を中心とした宮城県経済の概要

緩やかに持ち直しているものの、弱い動きもみられる。

○前回公表分からの変更点(前月号の表現)、なし。



※ 矢印により表現の上方・下方修正を示しています。

絶対的な好況・不況の水準や方向感を示すものではないことに御留意願います。

○前回公表分との比較(下線部は変更箇所)

個別指標	前回公表分 (2024年12月号)	今回公表分 (2025年1月号)	変化方向※
生産	持ち直しの兆しがみられる。	持ち直しの兆しがみられる。	→
住宅投資	弱い動きとなっている。	弱い動きとなっている。	→
公共投資	<u>横ばい圏内の動きとなっている。</u>	<u>弱めの動きとなっている。</u>	↓
個人消費	回復の動きに足踏みがみられる。	回復の動きに足踏みがみられる。	→
雇用	持ち直しの動きが弱まっている。	持ち直しの動きが弱まっている。	→
企業倒産	増加している。	増加している。	→

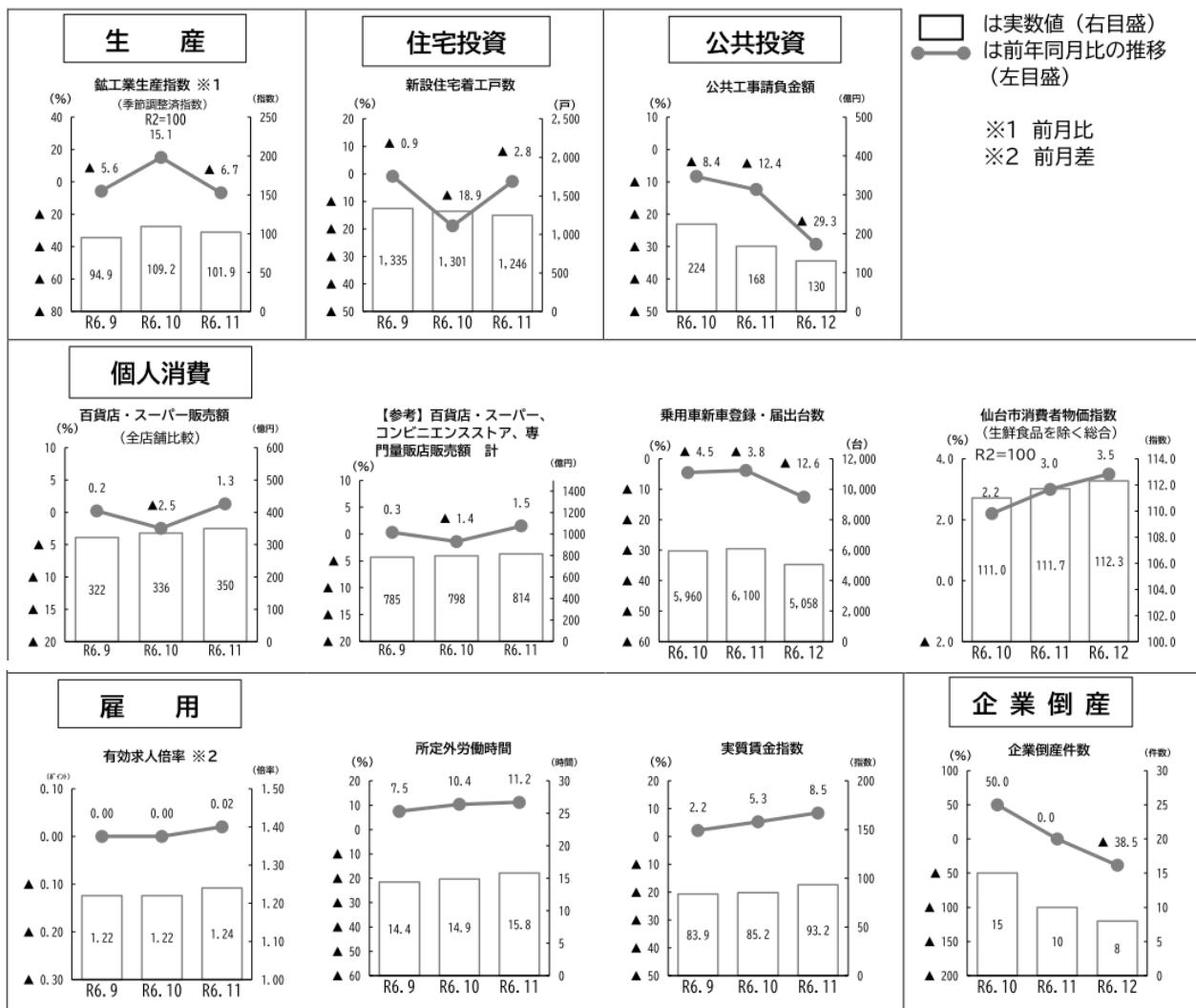
※ 矢印により表現の上方・下方修正を示しています。
絶対的な好況・不況の水準や方向感を示すものではないことに御留意願います。

II. 主な指標の動き

1生産	<p>○鉱工業生産指数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の鉱工業生産指数(季節調整値、令和2年=100)は 101.9(速報値)で、前月比は 6.7%低下し、2か月ぶりの低下となった。 ・業種別にみると、<u>電子部品・デバイス工業、鉄鋼・非鉄金属工業など6業種が上昇した</u>。一方で、<u>汎用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業など9業種が低下した</u>。 ・前年同月比(原指数)では 2.9%上昇し、2か月連続の上昇となった。 	(資料:県統計課)
2住宅投資	<p>○新設住宅着工戸数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の<u>新設住宅着工戸数</u>は 1,246 戸で、前年同月比 2.8%減少し、<u>4か月連続の減少</u>となった。 ・利用別に前年同月比をみると、<u>持家は 19.4%増加</u>し、2か月連続の増加となった。 ・<u>貸家は 9.5%減少</u>し、4か月連続の減少となった。 ・<u>分譲住宅は 9.3%減少</u>し、2か月連続の減少となった。 	(資料:国土交通省)
3公共投資	<p>○公共工事請負金額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月の<u>公共工事請負金額</u>は 130 億 2 百万円で、<u>前年同月比 29.3%減少</u>し、4か月連続の減少となった。 ・発注者別に前年同月比をみると、国は 59.2%減少し、5か月連続の減少となった。 ・都道府県は 5.6%増加し、2か月連続の増加となった。市町村は 49.2%減少し、2か月連続の減少となった。 ・その他※(独立行政法人等、地方公社、その他)は 13.6%増加し、3か月連続の増加となった。 ※「その他」は、県が算出 	資料:東日本建設業保証(株)
4個人消費	<p>(1)百貨店・スーパー販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の百貨店・スーパー販売額は 350 億円で、全店舗比較では前年同月比 1.3%増加し、2か月ぶりの増加となった。既存店比較は 2.6%増加し、2か月ぶりの増加となった。 <p>(2)コンビニエンスストア販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月のコンビニエンスストア販売額は 198 億円で、前年同月比 0.3%増加し、9か月ぶりの増加となった。 <p>(3)家電大型専門店販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の家電大型専門店販売額は 58 億円で、前年同月比 1.5%減少し、5か月連続の減少となった。 <p>(4)ドラッグストア販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月のドラッグストア販売額は 152 億円で、前年同月比 5.3%増加し、44か月連続の増加となった。 <p>(5)ホームセンター販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月のホームセンター販売額は 56 億円で、前年同月比 0.2%増加し、2か月ぶりの増加となった。 <p>(6)百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計(参考値※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計(参考値)は 814 億円で、前年同月比 1.5%増加し、2か月ぶりの増加と 	(資料:経済産業省) (資料:経済産業省) (資料:経済産業省) (資料:経済産業省) (資料:経済産業省) (資料:経済産業省)(資料:経済産業省)

	<p>なった。</p> <p>(7)乗用車新車登録及び届出台数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計)は 5,058 台で、前年同月比 12.6%減少し、3か月連続の減少となった。 ・車種別に前年同月比をみると、普通車は 8.9%減少し、3か月ぶりの減少となった。小型車は 22.8%減少し、12 か月連続の減少となった。軽自動車は 10.2%減少し、3か月連続の減少となった。 	(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)
	<p>(8)物価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月の仙台市消費者物価指数を前月比でみると、生鮮食品を除く総合指数(令和2年=100)は 112.3 で、前月比 0.6%上昇した。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数(同)は 111.1 で、前月比 0.3%上昇した。総合指数(同)は 113.3 で、前月比 1.0%上昇した。 ・前年同月比でみると、生鮮食品を除く総合指数(同)は 3.5%上昇し、42 か月連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数(同)は 2.9%上昇し、33 か月連続の上昇となった。総合指数(同)は 4.0%上昇し、40 か月連続の上昇となった。 	(資料:県統計課)
5.雇用	<p>(1)求人倍率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 月の有効求人倍率(季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)は 1.24 倍で、前月を 0.02 ポイント上回り、8か月ぶりの上昇となった。新規求人倍率(同)は 1.90 倍で、前月を 0.02 ポイント上回り、2か月ぶりの上昇となった。 ・有効求人数及び新規求人数(原数值、新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効は前年同月比 7.1%減少し 18 か月連続の減少となった。新規は前年同月比 6.8%減少し、14 か月連続の減少となった。 ・新規求人数(原数值・前年同月比)を産業別にみると、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「学術研究、専門・技術サービス業」で増加となった。一方で、「サービス業」、「建設業」、「製造業」などで減少となった。 <p>(2)所定外労働時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 月の所定外労働時間(製造業、事業所規模 30 人以上、1 人平均月間)は 15.8 時間で、前年同月比(指数、令和2年=100)が 11.2%増加し、5か月連続の増加となった。 <p>(3)実質賃金指数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 月の実質賃金指数(令和2年=100、現金給与総額、製造業、事業所規模 30 人以上)は 93.2 で、前年同月比が 8.5%上昇し、4か月連続の上昇となった。 <p>(4)雇用保険受給者実人員</p> <p>11 月の雇用保険受給者実人員は 7,957 人で、前年同月比 5.9%減少し、2か月連続の減少となった。</p>	<p>(資料:宮城労働局)</p> <p>(資料:県統計課)</p> <p>(資料:県統計課)</p> <p>(資料:宮城労働局)</p>
6.企業倒産	<ul style="list-style-type: none"> ・12 月の企業倒産(負債総額 1,000 万円以上)は8件で、前年同月比 38.5%減少し、3か月ぶりの減少となった。負債総額は5億 74 百万円で、前年同月比 41.3%減少し、2か月連続の減少となった。 ・大型倒産(負債総額 10 億円以上)は発生しなかった。 ・不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ(赤字累積))の件数は6件となり、全体に占める構成比は 75.0%となった。 	(資料:株東京商工リサーチ)

直近3か月の経済動向（前年同月比の動き）



□は実数値（右目盛）
●は前年同月比の推移（左目盛）

※1 前月比
※2 前月差

IV.全国・東北等の景況

1 全国の景況

月例経済報告(内閣府) 1月 23 日

<https://www.cao.go.jp/>

- 景気は、一部に足踏みが残るもの、緩やかに回復している。
 - ・個人消費は、一部に足踏みが残るもの、持ち直しの動きがみられる。
 - ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる。
 - ・輸出は、おおむね横ばいとなっている。
 - ・生産は、横ばいとなっている。
 - ・企業収益は、総じてみれば改善しているが、そのテンポは緩やかになっている。企業の業況判断は、改善している。
 - ・雇用情勢は、改善の動きがみられる。
 - ・消費者物価は、上昇している。
- 先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの今後の政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

経済・物価情勢の展望 一展望レポート—

基本的見解(日本銀行) 1月 24 日

<https://www.boj.or.jp/>

- ・わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
- ・海外経済は、総じてみれば緩やかに成長している。輸出や鉱工業生産は横ばい圏内の動きとなっている。企業収益は改善傾向にあり、業況感は良好な水準を維持している。
- ・こうしたもとで、設備投資は緩やかな増加傾向にある。
- ・雇用・所得環境は緩やかに改善している。
- ・個人消費は、物価上昇の影響などがみられるものの、緩やかな増加基調にある。
- ・住宅投資は弱めの動きとなっている。
- ・公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。
- ・わが国の金融環境は、緩和した状態にある。
- ・物価面では、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比をみると、既往の輸入物価上昇を起点とする価格転嫁の影響は減衰してきているものの、賃金上昇等を受けたサービス価格の緩やかな上昇が続くもとで、政府によるエネルギー負担緩和策の縮小もあって、足もとは3%程度となっている。
- ・予想物価上昇率は、緩やかに上昇している。

2 東北の景況

管内(東北6県)の経済動向(東北経済産業局) 1月 24日

<https://www.tohoku.meti.go.jp/>

- 緩やかに持ち直している。
 - ・鉱 工 業 生 産:持ち直しの動きがみられる。
 - ・個 人 消 費:改善の動きに足踏みがみられる。
 - ・住 宅 着 工:4か月連続で前年同月を下回った。
 - ・公 共 投 資:2 か月ぶりに前年同月を下回った。
 - ・設 備 投 資:前年度を上回る見込み。
 - ・雇 用:有効求人倍率は前月と比べ上昇。
 - ・企 業 倒 産:倒産件数は前年同月を上回った。
- (※前月と基調判断に変更がある場合は矢印で上下を示している。)

経済の動き（日本銀行仙台支店） 1月 28 日

<https://www3.boj.or.jp/sendai>

- 東北地域の景気は、持ち直している。
 - ・最終需要の動向をみると、公共投資は、横ばい圏内の動きとなっている。
 - ・設備投資は、増加している。
 - ・個人消費は、緩やかに回復している。
 - ・住宅投資は、弱い動きとなっている。
 - ・この間、生産は、持ち直している。
 - ・雇用・所得環境は、改善している。
 - ・消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回っている。

3 宮城県の景況

県内経済の基調判断（七十七リサーチ＆コンサルティング株式会社） 1月10日

<https://www.77rc.co.jp/>

総括判断

最近の県内景況をみると、総じて足踏みしている。

概 况

生産は振れを伴いつつ、全体として持ち直しに向けた動きがみられる。需要面の動きをみると、公共投資は弱めの動きとなっている。住宅投資は弱めの動きとなっている。個人消費は総じて弱含んでいる。雇用情勢は持ち直しの動きが足踏みしている。

【用語解説】

○指数：ある統計データについて、100 又は 1 を基準とした数値で表し、時間的な変化や比率などをわかりやすくしたもの。

(例)りんごの価格の指数を求めてみます。基準年を令和2年とした場合、令和2年のりんごの価格指数は 100 となります($R_2=100$)。りんごの令和2年の平均価格が 30 円で、今月の価格が 31 円だった場合、今月のりんごの価格の指数は、 $30 \text{ 円} = 100$ なので、比例計算で以下のとおり 103.3 となります。
(りんごの価格指数) $31 \text{ 円} \div 30 \text{ 円} \times 100 = 103.3$

○季節調整：経済に関する時系列データについて、真の変動を把握するため、元データから季節による変動分(季節変動※)を取り除くこと。

※ 季節変動(季節性)の例

- ・ 夏にかき氷の販売が増える。
- ・ 冬にストーブの販売が増える。
- ・ 決算対策のため中間決算や決算の時期に生産や販売が増加する。

○前月(期)比：前月(期)からの変化率。

$$\text{前月(期)比} = \frac{\text{当月(期)の値} - \text{前月(期)の値}}{\text{前月(期)の値}}$$

* 足元の動きを見るための目安になります。季節変動のあるデータについては季節調整済の値により比較します。

○前年同月(期)比：前年の同じ月(期)からの変化率。

$$\text{前年同月(期)比} = \frac{\text{当月(期)の値} - \text{前年の同じ月(期)の値}}{\text{前年の同じ月(期)の値}}$$

* 季節変動があるため単純に前月(期)と比較することができないものについては、前年の同じ月(期)と比較することで、季節的な要因を考慮せずに変化の方向性が見やすくなります。ただし、大規模災害など前年に特別な出来事の発生により大きく増減した場合には、その反動により当月(期)も大きく増減するので注意が必要です。

[まとめ]

- 宮城県・全国・東北の景況感の概要を以下にまとめる。

対象	調査部門	記述
宮城県	宮城県	緩やかに持ち直しているものの、弱い動きもみられる。
	七十七リサーチ＆コンサルティング(株)	最近の県内景況をみると、総じて足踏みしている。
全国	内閣府	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。
	日本銀行	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
東北	東北経済産業局	緩やかに持ち直している。
	日本銀行仙台支店	東北地域の景気は持ち直している。

- 宮城県の個別指標の概要を以下にまとめる。

個別指標	宮城県今回公表分(2025年1月号)	七十七リサーチ＆コンサルティング株式会社) 1月 10 日
概要	緩やかに持ち直しているものの、弱い動きもみられる。	最近の県内景況をみると、総じて足踏みしている。
生産	持ち直しの兆しがみられる。	振れを伴いつつ、全体として持ち直しに向けた動きがみられる。
住宅投資	弱い動きとなっている。	弱めの動きとなっている。
公共投資	弱めの動きとなっている。	弱めの動きとなっている。
個人消費	回復の動きに足踏みがみられる。	総じて弱含んでいる。
雇用	持ち直しの動きが弱まっている。	持ち直しの動きが足踏みしている。
企業倒産	増加の傾向が続いている。	